

第 205 回 品川区の町田佳聲像、石井鐵太郎像、及び高木正年像

筆者：林 久治（記載：2022 年 10 月 26 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っただけで人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の末には感染者数が激減し、「これで流行は終息か？」と期待していた。所が、本年になって第 6 波が到来してしまった。2 月 3 日には、日本全国の新規感染者数は、過去最高の 104,334 名に達した。しかし、これをピークとして新規感染者数は徐々に減少して、6 月 23 日には 16,670 名にまで減少した。

私は第 4 回目の予防接種を 7 月 8 日に受けることが出来た。そこで、私は 7 月 16 日からの連休後に大阪に行って、孫達と遊ぶことを計画した。しかし、6 月末から第 7 波が到来して、新規感染者数が急激に増加し始めたので、残念ながら私は大阪行きを中止した次第である。その間、新規感染者数は急激に増加し、8 月 3 日には過去最高の 249,789 名にまで達した。これは、当日の世界最高値であった。

東京地方の猛暑は例年以上で、7 月初旬から最高気温は連日 35℃以上であった。従って、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、8 月 4 日から 6 日までは大変涼しくなったので、6 日には東京でも銅像探索を再開した。9 月初旬、私共は大阪に滞在し、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。なお、私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

10 月 8 日には、私は品川区の昭和大学に創立者の上條秀介像を探索した。そのついでに、大井町駅に廻ってその近くにある日本民謡会館の玄関前にある浦本政三郎像と菊地淡水像を探索した。これらの探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。浦本像と菊池像は [1\) のサイト/](#) に収録されているが、私が本館に行ったのは収録されていない町田佳聲像が館内にあるからであった。しかし、10 月 8 日は土曜日で本館は休館であった。そこで、私は 10 月 21 日（金）に本館を再訪して、町田像を探索した次第である。当日はついでに、品川区の石井鐵太郎像と高木正年像も探索した。これら 2 像は [1\) のサイト/](#) に収録されているが、基本情報が収録されていなかったからである。本稿は、これらの像の探索記である。本稿では、私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

(2) 日本民謡会館の町田佳聲像

私が10月8日(土)に日本民謡会館(以後、本館と書く)に初めて行った時、本館は休館日であった。本館の玄関前に「開館は平日の10時30分から16時まで」との掲示があった。私は[3\)のサイト/1](#)で、町田佳聲像が本館内に設置されていることを知っていたので、10月21日(金)に本館を再訪した次第である。大井町駅から本館に行く道順は、[前回の記事/f](#)の図5に記載した。



図1. 日本民謡会館の玄関

図1に日本民謡会館の玄関を示す。[前回の記事/f](#)に書いたように、玄関前の向かって左側に浦本像が、右側に菊池像が設置されている。10月21日は本館が開いていたので、私が玄関を入ると、直ぐ右側に銅像が設置されていた。館内には職員の方々が多数おられたので、私はその一人の許可を得て、本像を撮影した。

その写真を次ページの図2左に示す。周囲が大変暗かったので、鮮明な写真が得られなかった。本像台座正面にあった題字を図2右に示す。これには「町田佳聲氏胸像」と書かれていた。本像背面には彫文があった。しかし、本像はガラス窓の直前に設置されていたので、彫文はよく見えなかった。ただ、「昭和五十年十一月」との日付は読めたが、制作者のサインは解読不能であった。

本像の周辺には、上記以外の説明文は無かった。しかし、町田先生は日本民謡では大変有名な方らしく、先生のネット記事は沢山あった。(私は、今回の探索まで、先生のお名前さえ知らなかった。) [3\)のサイト/1](#)には、次のような記載がある。

①広辞苑：筆名は町田佳聲(まちだ かしょう、1886-1981)、本名は嘉章(よしあき)。群馬県伊勢崎生れ。東京放送局で邦楽担当。全国の民謡採集・研究に従事。編集「日本民謡大観」(1944-80年刊)。*町田嘉章は伊勢崎出身で広辞苑に載る唯一の人物。

②日本民謡会館のエントランスには町田佳聲の胸像が設置され来訪者を暖かく迎え入れてくれる。*胸像は昭和50年(1975)米寿記念に贈られた。

③町田佳聲は生涯をかけて収集した資料や研究資料を日本民謡協会へ寄贈され、散在せず後世へとつなげ、現在でも多くに研究者の研究対象となっている。1985年8月、現在地に会館落成。資料室に設け、寄贈の資料を保管。資料室は一般に開放されており、誰でも閲覧可能である。



図2. 左：町田佳聲氏胸像、右：本像の題字。

町田氏の略歴は、[4\) のサイト](#)やウィキペディアに記載されている。これらの資料より、本像の概要は次の通りである。

町田佳聲氏胸像

設置場所：東京都品川区南品川 6-8-20 日本民謡会館玄関内

制作者：サインはあったが解読不能

設置時期：1975年11月（米寿記念）

設置経緯：町田佳聲（かしょう、本名：嘉章、1888.6.8.－1981.9.19.）は近世邦楽・日本民謡研究家、作曲家。群馬県伊勢崎生まれ。1907年東京美術学校図案科に入学したが、眼病のため三味線の研究に専心、1913年同校卒業後、「時事新報」の芸能・邦楽担当記者となり、町田博三の筆名で執筆。20年古曲保存会を設立、邦楽レコードを制作。25年東京中央放送局に入り邦楽番組を担当。伶明音楽会を組織して五線譜による邦楽演奏家を養成。放送局退職後、民謡の採集に着手、かたわら「日本民謡大観」編集に従事。東京芸術大学音楽学部講師、東洋音楽学会2代目会長などもつとめた。NHK放送文化賞、紫綬褒章など受章。主著「ラジオ邦楽の鑑賞」など。作曲面では宮城道雄らの新日本音楽の中心人物の1人として活躍したほか、北原白秋の依頼で作曲した新民謡、とくに「チャッキリ節」（1927）が広く知られる。町田氏は生涯をかけて収集した資料や研究資料を日本民謡協会へ寄贈し、貴重な資料を散逸せず後世へとつなげ、現在でも多くに研究者の研究対象となっている。（「チャッキリ節」の動画⇒[チャッキリ節/I](#)）

（3）品川区立聖蹟公園の石井鐵太郎像



図3. 品川神社と東海道品川宿、本図は、[5](#)の[サイト](#)/より借用。①：京浜急行新馬場駅、②：品川神社参道鳥居、③：品川本陣跡（聖蹟公園）、④：妙蓮寺。

品川神社と東海道品川宿の地図を図3に示す。私は、京浜急行新馬場駅（図3の①）を下車し、品川神社参道鳥居（図3の②）をくぐって、品川本陣跡（図3の③）まで行った。徒歩で約10分であった。図4左に地図3の③地点から見た「旧東海道」の通りを、図4右に地図3の③地点にあった「品川本陣跡」の石標を示す。



図4. 上左：「旧東海道」の通り（地図3の③地点から撮影）、上右：「品川本陣跡」の石標（地図3の③地点に存在）、下：聖蹟公園の内部（地図3の③地点）。

図4下に、聖蹟公園の内部の写真を示す。本図の写真には、向って右側には「御聖蹟の碑」があり、向って左側には1基の胸像があった。図5上には、本園の案内板を示す。

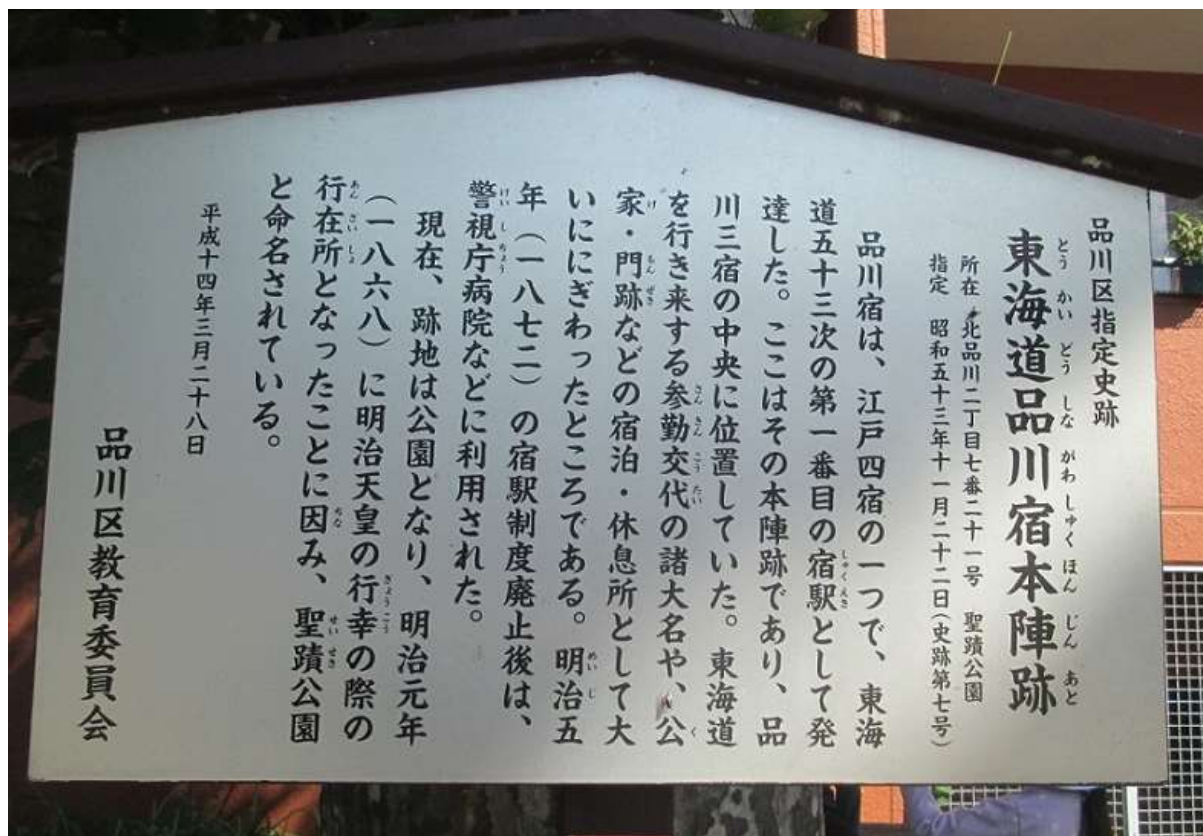


図5.
上：品川宿本陣跡の案内板、
下左：石井鐵太郎翁之像、
下右：御聖蹟の碑。

図5下右には、御聖蹟の碑を示す。本碑は、粗末なコンクリートブロックの中にあつた。また、「碑文」は風化が激しく、文章は全く読めなかつた。これでは、明治天皇に不敬である。図5下左には胸像の写真を示す。台座正面には題字があり、それには「石井鐵太郎翁之像 灘尾弘吉書」とあつた。本像背面には制作者のサインがあつた。その写真を、図6左に示す。それには、「1979 幾久作」とあつた。台座側面には碑文があつたが、立派な石板に刻まれていたので表面反射が著しく、そのために碑文の撮影は出来なかつた。

図6.

左：石井鐵太郎像背面の制作者のサイン、
右：高木正年像背面の制作者のサイン。



灘尾弘吉（1899-1994）は、昭和時代の内務・厚生官僚、政治家。衆議院議長（60・61代）、文部大臣（74・75・77・82・83・90代）、厚生大臣（41代）を歴任した。制作者の幾久は、小金丸幾久（1915-2003）のことで、彼の略歴は[6\)のサイト](#)に記載されている。

石井鐵太郎翁の経歴は、ウィキペディアにはない。しかし、彼は品川で名誉区民制度第一号に選ばれたので、ネット記事は多い。彼の経歴と業績は、[7\)のサイト/1](#)や[8\)のサイト/1](#)などに記載されている。以上の資料などにより、本像の概要は次の通りである。

石井鐵太郎翁之像

設置場所：東京都品川区北品川 2-7-21 品川区立聖蹟公園

制作者：小金丸幾久（1915 -2003）

設置時期：1979年

設置経緯：石井鐵太郎氏（1893年7月14日-1978年1月27日）は、東京産業信用金庫（現さわやか信用金庫）の会長を務め、また長らく地元の社会福祉活動にも尽力してきた人物。1975年12月5日には、品川名誉区民第1号に列せられた。

(4) 妙蓮寺の高木正年像

私は石井像の探索後、妙蓮寺の高木正年像を探索した。妙蓮寺は、図3外の④地点にあった。当地は、京浜急行新馬場駅から第一京浜を西行し、目黒川を渡ったすぐ左側にあった。目指す高木正年像は寺の境内に設置されていた。その写真を図7左に示す。本像の背面には、制作者のサインが刻まれていた。その写真を図6右に示す。本像も「幾久作」であった。



図7. 左：高木正年先生之像、右：本像の碑文。

図7右には、本像台座側面の碑文を示す。それには、次のように書かれていた。

憲法實施以來衆議院議員トシテ終始一貫國民利福ヲ念トシ身ヲ以テ憲政ニ貢献スルコト五十年利害得策ノ為ニ未ダ嘗テ其ノ操守ヲ渝ヘス永ヘニ士人ノ矜式ト為ルモノ近世罕ニ見ル
 我カ高木正年君ノ如キハ實に其ノ人也 君本姓ハ細井氏安政三年武蔵在原郡南品川宿ニ生マル幼ニシテ高木以善ノ養フ所トナリ其ノ姓ヲ員ス 君夙ニ濟生ノ志ヲ懷キ明治二十三年東京府ヨリ選ぶハレテ衆議院議員トナリ當選十三回三十年失明ノ後猶且ツ讜論ヲ持シ意氣毫も衰エス普選法ノ實現君ノ努力亦タ尠シトセズ第六十七議會ノ開會スルヤ君疾ヲ興ニ登院シ後チ數日終ニ起タズ享年七十九實ニ昭和九年十二月盡日也 君天資重厚寡々匪窮志君國ニ存ス生キテ其職ニ竭シ死シテ其ノ志ニ資カス嗟呼國士ト云フヘシ

昭和十年三月 蘇峰 徳富正敬撰

なお、上記碑文の難しい漢字を以下に説明する。

矜式：きょうしょく、(一スル)つつしんで手本にすること

罕：まれ (部首索引：冫)

夙に：つとに

尠い：すくない

嗟呼：ああ

私は「上記の碑文は美辞麗句を弄していると雖も、高木先生の功績を具体的に何も説明していない！碑文によくある悪い例だ！」と批判したい。高木先生の略歴は、ウィキペディア、[9](#)のサイト、[10](#)のサイト/2などに記載されている。以上の資料などにより、本像の概要は次の通りである。

高木正年先生之像

設置場所：東京都品川区南品川 1-1-1 妙蓮寺境内

制作者：小金丸幾久 (1915-2003)

設置時期：1963 年

設置経緯：高木正年 (まさとし、1857 年 1 月 4 日- 1934 年 12 月 31 日) は、日本の政治家。日本初の視覚障害をもつ衆議院議員であった。正年は武蔵国荏原郡南品川で質屋を営んでいた細井半兵衛以年の三男として生まれる。幼くして英才の誉れあり、親戚の高木一兵衛以考の養子になる。この養父は幕臣で本草学者であったという。12~16 歳時に、隣家に隠棲していた木村芥舟に学ぶ。その後、猿渡容盛、井上頼罔、江木高遠に学ぶ。1883 年の第 2 期東京府会議員に当選する。1890 年、第 1 回総選挙に立候補して当選し、衆議院議員になる。34 歳だった。1892 年の第 3 回総選挙では、第 1 次松方内閣の選挙大干渉にあい落選した。これは失明前の唯一の落選であった。当選回数は計 13 回、議員生活 39 年に及んだ。1897 年、40 歳の時に緑内障のために失明した。同僚議員柴四朗の励ましなどにより失明からの立直りは一般の失明者に比べて早かった。失明の身で広い選挙区 (第 5 区=荏原郡・豊多摩・伊豆七島) をまわり、選挙運動にも励んだ。1903 年の第 1 回全国盲人大会に出席した。「道ひとすじ—昭和を生きた盲人たち—」で、昭和時代に活躍した著名な盲人 100 人の一人に挙げられている。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<http://iga.justhpbs.jp/machida-kyoukai.html>
- 4) のサイト：[町田佳聲とは - コトバンク \(kotobank.jp\)](http://kotobank.jp/)
- 5) のサイト：<https://nanameyoko.com/post-199/>
- 6) のサイト：[小金丸幾久 - 小金丸幾久の概要 - わかりやすく解説 Weblio 辞書](#)
- 7) のサイト：<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kuseizyoho/kuseizyoho-siryo/hpg000006973.html>
- 8) のサイト：<http://tokyopasserby.blogspot.com/2011/10/blog-post.html>
- 9) のサイト：[品川人物伝 第 21 回 | 品川区 \(city.shinagawa.tokyo.jp\)](http://city.shinagawa.tokyo.jp/)
- 10) のサイト：<https://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who8-13022>